

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：イヌマキの接ぎ木技術の開発			
<p>[要約] イヌマキの腹接ぎは3月、4月、6月、7月に行うと活着率が高い。呼び接ぎは3月から8月が適期で、翌2月までにほぼ全ての穂木が活着する。取り木の環状剥皮は3月下旬から4月に行い、鉢上げまで約5か月以上養生する。</p>			
キーワード 植木類 イヌマキ 接ぎ木 取り木			
<p>実施機関名 主 査 農林総合研究センター 花植木研究室 協力機関 海匠農業事務所</p>			
実施期間 2015年度～2017年度			

[目的及び背景]

輸出用植木類の枯渇対策と販路拡大を目的に、既存の中・小型植木に付加価値をつける接ぎ木技術を開発する。具体的には、従来から行われている腹接ぎに用いる穂木と接ぎ木適期を確認するとともに、盆栽技術で活用されている呼び接ぎ、取り木の処理適期と必要な養生期間を明らかにする。

[成果内容]

- 1 イヌマキの腹接ぎ（図1）は3月採穂、前日採穂いずれも3月、4月、6月、7月に腹接ぎすることによって、穂木が枯死せず安定して伸長しやすい目安である60%以上の高い活着率が得られる（図3）。
- 2 イヌマキの呼び接ぎ（図2）は、3月から8月までに行うと、翌2月までにほぼ全ての穂木が活着し、3月以降できるだけ早い時期に接ぎ木することで整枝・せん定を開始する翌春（4月）の伸長量を確保できる（データ省略）。
- 3 イヌマキの取り木（図4）は4月から7月に木部が露出するまで環状剥皮（剥皮強度4、枝径と同程度の長さ）を行うと、翌年1月までに発根を確認できる（図5）。
- 4 イヌマキの取り木は環状剥皮を3月下旬から4月に行い、鉢上げまで約5か月以上養生することで、長さ10mm以上の発根本数率を約60%以上確保でき、鉢上げ後の障害程度を0.5以下に抑えることができる（表2）。

[留意事項]

- 1 腹接ぎで用いる穂木は採穂後、葉身を落とし、4cm程度に調製する。その後、湿らせた新聞紙等でくるみビニール袋で密閉、5℃設定の冷蔵庫内で保管する。腹接ぎ前日又は当日に4～6時間程度水揚げを行ってから接ぎ木に用いる。
- 2 呼び接ぎで用いる穂木は根鉢の保水性を高めるため、呼び接ぎ前に根鉢から培養土を除去し、ミズゴケを詰め、ビニール袋で隙間から水が入る程度に密閉する。

- 3 高温乾燥時（5～8月）は呼び接ぎ後根部切り離しまでの根鉢や取り木の環状剥皮後の養生部分に適時かん水し、ミズゴケを乾燥させないように管理する。
- 4 取り木のための鉢上げはミズゴケがついた状態のまま鉢上げする。

[普及対象地域]

県内植木生産地全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]



図1 イヌマキの腹接ぎの様子

注) 穂木の枝基部をくさび状に切り、台木の幹枝部に2cm程度の切れ込みを入れ、穂木を切れ込みに挿し入れた後、養生テープで密着させた



図2 イヌマキの呼び接ぎの様子

注) 穂木と台木の接ぎ木する場所にそれぞれ切れ込みを入れ、切れ込み同士を組み合わせながら釘、絶縁テープ、癒合剤で接ぎ木部を固定し密着させた

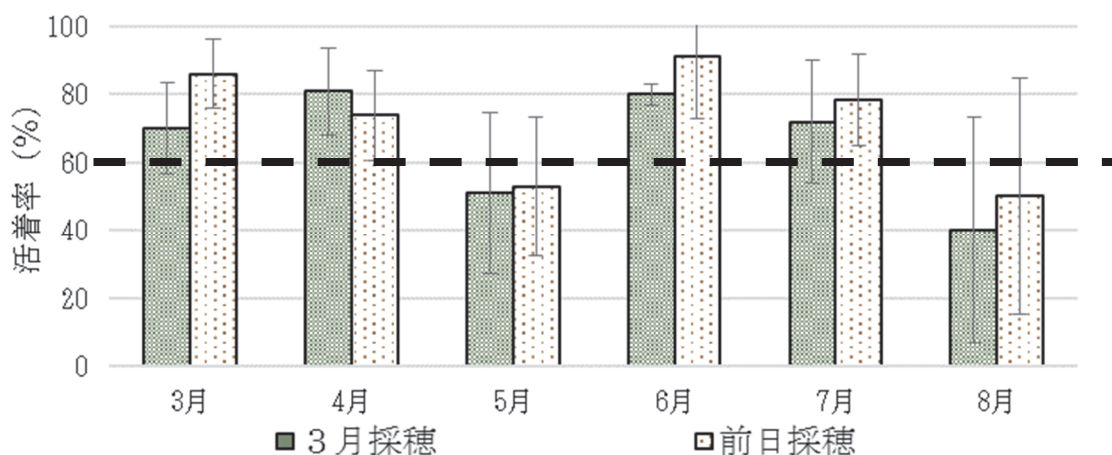


図3 腹接ぎの接ぎ木時期の違いと活着率 (平成27～29年度)

注1) 穂木：太さ3mm、長さ4cm、台木：太さ30～40mm、高さ250cm

注2) 接ぎ木時期 平成27年：4月21日、5月22日、6月19、22日、7月29、30日、8月21、27日
平成28年：3月18日、4月19日、5月19日、6月15日、7月28日、8月18日
平成29年：3月29日、4月19日、5月19日、7月6日

注3) 穂木と接ぎ木位置：腹接ぎ実施の前日に採取した穂木を前日採穂、3月に採取した穂木を3月採穂とし、前日採穂は台木の地際～高さ60cmまでの位置に、3月採穂は台木の60cm～120cmの位置に、らせん状に接ぎ木し、養生テープで密着させた

注4) 活着率 = 100 - (調査時点で枯死した穂木 / 供試穂木数) × 100

注5) 活着率：60%を下回ると、活着はするが伸長しない穂木が生じやすく腹接ぎ後の生育が不安定となるため60%以上を活着の基準とした

注6) エラーバーは標準誤差

表1 呼び接ぎ時期、根鉢切り離し時期別の穂木活着本数（平成28、29年度）

接ぎ木日	根鉢切り離し時期別の穂木活着本数							
	3)							
	31～ 42日	63～ 74日	94～ 105日	125～ 136日	146～ 167日	183～ 196日	217～ 224日	245日
平成28年 9月27日	—	—	—	—	0	—	—	—
3月28日	0	0	2	2	4	4	4	4
4月18日	0	2	3	3	4	3	3	—
平成29年 5月29日	0	1	3	4	3	4	—	—
6月27日	0	3	4	4	4	—	—	—
8月22日	4	4	4	—	—	—	—	—

注1) 穂木：4号ポット、太さ4mm、高さ40cm、台木：太さ40mm、高さ250cm

2) 穂木活着数：調査時点で生育していた穂木数

3) 接ぎ木後、根鉢切り離しまでの期間を示す

4) 平成28年度は9月27日に台木1本に対して連続6本接ぎ木して供試数を18本とし、2月28日に根を一斉に切り離し、4月21日に調査した

平成29年度は台木1本に対して連続8本接ぎ木し、時期を変えて根を切り離して供試数を4本とし、12月15日に調査した

5) —：試験実施無し



図4 イヌマキの取り木の環状剥皮の様子

注) 台木に幹径と同程度の剥皮区間を設けて剥皮強度別に表皮を削り取った後、水で湿らせたミズゴケを黒ポリポットで包み、ビニール袋で隙間から水が入る程度に密閉した



7月環状剥皮 剥皮強度2



7月環状剥皮 剥皮強度4



8月環状剥皮 剥皮強度4

図5 環状剥皮の時期別、剥皮強度別の結果（平成28年度）

注1) 剥皮強度1：表皮のみ環状剥皮

2：形成層を残すように環状剥皮

3：形成層をはぐように環状剥皮

4：木部が露出するまで環状剥皮

2) 供試木：太さ50mm、高さ200cm

3) 調査日：平成29年1月26日

4) 調査日における発根状況は環状剥皮時期が4月から7月までの供試樹で同様の結果を示した

表2 環状剥皮・養生期間時期別の長さ10mm以上発根本数と障害程度（平成29年度）

環状剥皮日	養生期間	取り木鉢上げ日	鉢上げ時 発根総本数	鉢上げ時 長さ10mm以上 発根本数	長さ10mm以上 発根本数率 (%)	平成30年 1月19日時点 障害程度
3月28日	167日	9月11日	144	98	68	0.0
	206日	10月20日	320	194	61	0.5
	234日	11月17日	308	224	73	0.5
4月17日	147日	9月11日	208	126	61	0.3
	186日	10月20日	210	185	88	0.3
	214日	11月17日	203	189	93	0.5
5月19日	115日	9月11日	86	35	41	5.0
	154日	10月20日	68	40	59	5.0
	182日	11月17日	100	68	68	0.5
6月30日	73日	9月11日	11	0	0	4.0
	112日	10月20日	24	15	64	1.5
	140日	11月17日	111	88	79	0.5
8月3日	39日	9月11日	0	0	—	—
	78日	10月20日	24	1	4	1.8
	106日	11月17日	57	37	64	2.3

注1) 供試木：太さ40mm、高さ200cm

2) 障害程度は目視によって葉身の枯死の程度を0～10の11段階で評価した

3) 鉢上げは発根部位直下から切断し、ピートモスを充填した30cm黒ポリポットに行った

4) —：試験実施無し

[発表及び関連文献]

平成30年度試験研究成果発表会（花植木部門Ⅱ）

[その他]